

平成18年7月の解説（府県天気予報）

【7月の天候状況】

梅雨前線が日本付近に停滞することが多く、月半ばに西日本などで晴れたほかは、下旬の前半まで、ほぼ全国的に雨の日が多くなりました。下旬の後半には梅雨前線の活動が弱まり、北日本の太平洋側の地方を除いて、ほぼ全国的に晴れの日が多くなりました。南西諸島では月を通して太平洋高気圧に覆われることが多く晴れの日が続きました。

月を通しての日照時間は、ほぼ全国的に平年より少なくなりましたが、南西諸島では平年並でした。降水量は東日本・西日本では平年より多く、北日本と南西諸島では平年並で、気温はほぼ全国的に平年並みとなりました。

【7月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で78%、明後日予報で74%といずれも例年より1ポイント低くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は東北、関東甲信、東海、四国地方では例年より4から8ポイント低くなりましたが、九州南部地方では例年より4ポイント高くなりました。明後日予報は東北地方で4ポイント、関東甲信地方で7ポイントそれぞれ例年より低くなりましたが、沖縄地方では例年より8ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、例年と比べて全国的に大きく特に東海地方で0.6、北陸地方で0.4大きく、全国平均では例年より0.2大きい2.1でした。また、最低気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より小さく、全国平均では例年より0.1小さい1.1でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報から】

天気図の上では梅雨前線は真っ直ぐな線ではなく、ときどき南北に波を打つような形になります。北に盛り上がった部分の周辺では、梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気の流れ込みが盛んになります。このため大気の状態が不安定になって雨雲が発達し、激しい雨を降らせることがあります。

7月23日はこのような気圧配置となりました（図1）。梅雨前線が関東地方の南岸まで盛り上がり、梅雨前線に近い房総半島から伊豆諸島にかけて、発達した雨雲があります（図2）。また、この発達した雨雲の北側の千葉県北部から東京、神奈川県の一部などに弱い雨雲がかかっています。東京地方でも朝のうちに1時間数ミリの雨を観測しました。

22日夕方の東京地方の天気予報では、23日（明日）の天気を「くもり」と発表しましたが、朝のうちに弱い雨が降る可能性も考慮して、6時から12時までの降水確率は20%としまし

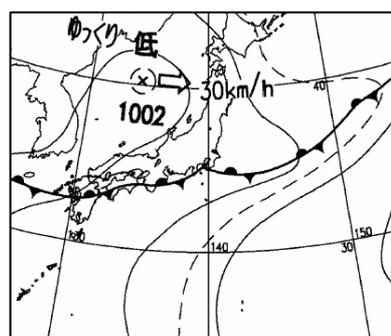


図1 7月23日6時の実況地上天気図

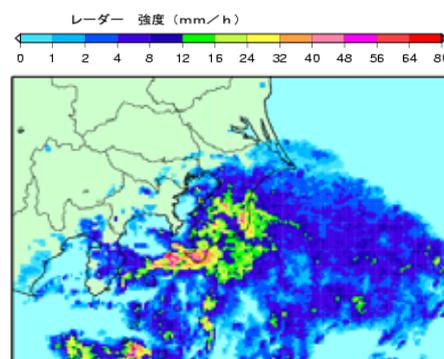


図2 7月23日6時の気象レーダー観測

た。これは、梅雨前線が伊豆諸島付近で北に盛り上がるとの予想（図3）から、伊豆諸島付近では活発な雨雲が発生しやすい状態になるものの、少し離れた東京地方では、雨雲はほとんどかからないと判断したためです。

図3の予想天気図と図1の実況の天気図とを比較してわかるように、前線の位置は極めて良く予想されていましたが、今回の事例では、前線の活動の程度のわずかな違いにより、雨雲の北への広がりが十分に予想できず、曇りの予報が外れて雨となりました。このように、前線によって曇ったり、雨が降るような場合には、前線の位置や活動の程度が予想から少しずれるだけで、雨の降る地域や量が大きく変わることがあります。

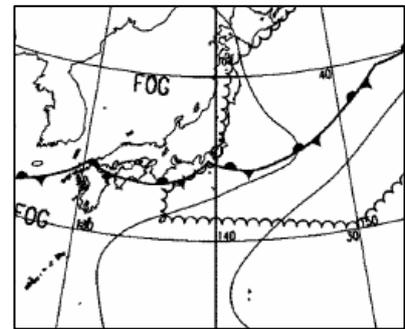


図3 7月23日9時を対象とした24時間予想天気図

【9月の天気予報の利用にあたって】

9月は台風による災害が多い月です。最近10年間では台風による災害が無かった年はありません。下表を見ると、大きな災害をもたらす要因としては、台風だけの場合と停滞前線などとの複合的な場合とがあります。中には、台風が日本から遠く離れて通過したにもかかわらず、大きな災害

表 9月に災害をもたらした台風(最近10年)

年	災害をもたらした台風番号等	概要
2005年	台風第14号と前線	九州・四国・中国地方で長時間にわたる暴風雨、高波。
2004年	台風第21号と停滞前線	三重県では1時間に130mmを超える猛烈な雨。
	台風第18号	沖縄地方から北海道地方にかけて、各地で猛烈な風。
2003年	台風第14号	猛烈な勢力で宮古島を通過。
2002年	台風第21号	関東南部に上陸し、北日本を縦断。関東から北日本の太平洋側で暴風。
2001年	台風第16号	沖縄近海で複雑な動き。
	台風第15号	関東南部に上陸、東海から関東山沿いを中心に大雨。
2000年	台風第14・15・17号と停滞前線	東海地方で記録的な大雨。
1999年	台風第18号	熊本県に上陸。熊本県で顕著な高潮被害。
	台風第16号と前線	九州南部に上陸後、四国から本州中部へ。岐阜県で長良川が氾濫。
1998年	台風第8・7号	台風第8号、第7号が2日連続して近畿地方に上陸。
	台風第5号	静岡県に上陸後、北日本を縦断。関東で暴風、東日本から北日本で大雨。
1997年	台風第19号	九州南部に上陸、九州南部や四国で暴風。
1996年	台風第17号	房総半島沖を北東進、関東南部や伊豆諸島で暴風雨。

となった場合もあります。

平成12(2000)年の台風第14号は、9月2日にマリアナ近海で発生して西に進み、12日19時すぎに沖縄本島を通過した後、東シナ海を北へ進み16日15時に朝鮮半島北東岸で温帯低気圧に変わりました。

この台風が沖縄の南東海上から東シナ海に進んでいた11日から12日にかけて日本付近には前線が停滞して(右図)、台風の東側を回って南よりの非常に暖かく湿った空気が流れ込んだために、東海地方では記録的な雨が降り、浸水による甚大な被害が発生しました。

日本付近に前線が停滞している場合、台風の進路から遠く離れた地方でも大雨になり、災害が発生することがありますので、天気予報や気象情報に注意して災害に備えましょう。

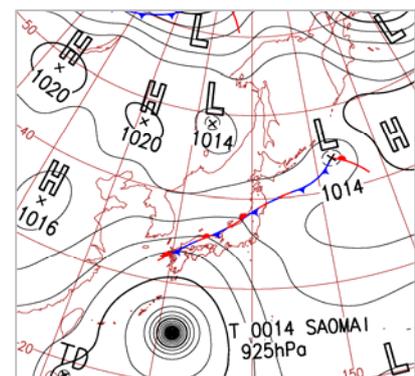


図 2000年9月11日09時の地上天気図